

【必答】現代文 ※この問題は受験者全員が解答すること

(一) 次の文章を読んで、後の問い(問一～十二)に答えよ。

千利休の朝顔をめぐるエピソードは、比較的よく知られた話であろう。利休は珍しい種類の朝顔を裁aバイして評判を呼んでいた。その評判を聞いた秀吉が実際に朝顔を見てみたいと望んだので、利休は秀吉を自分の邸やしきに招く。ところがその当日の朝、利休は庭に咲いていた朝顔の花を全部摘み取らせてしまった。やって来た秀吉は、期待を裏切られて、当然不機嫌になる。しかしかたわらの茶室に招じ入れられると、その床の間に一輪、見事な朝顔が活いけられていた。それを見て秀吉は大いに満足したという。

このエピソードに、美に対する利休の考えがよく示されている。庭一面に咲いた朝顔の花も、むろんそれなりに魅力的な光景であろう。しかし利休は、その美しさを敢あえて犠牲にして、床の間のただ一点にすべてをギョウ縮bさせた。一輪の花の美しさを際立たせるためには、それ以外の花の存在は不要である。いやそれどころか邪魔になるとさえ言えるかもしれない。邪魔なもの、余計なものを切り捨てるところに利休の美は成立する。【A】

だが庭の花を摘み取らせたことの意味は、余計なものの排除という点にだけ尽きるものではない。花のない庭というのは、それ自体美の世界を構成する重要な役割を持っている。期待に満ちてやって来た秀吉は、一輪の花もない庭を見て失望し、不満を覚えたであろう。茶室に入ったときも、その不満は続いていたはずである。そのような状態で床の花と対面したとすれば、何もなしに直ちセツ花と向き合ったときと較くらべて、不満があった分だけ驚きは大きく、印象もそれだけ強烈なものとなったであろう。利休はそこまで計算していたのではなかったらうか。

① 床の花は、庭の花の不在によっていつそう引き立てられる。このような美の世界を仮かりに一幅の絵画に仕立てるとすれば、画面の中央に花を置くだけではⅠ充分であり、一方に花が、そして他方に何もない空間が広がるという構図になるであろう。【B】

この「余白」という言葉は、英語やフランス語には訳しにくい。西洋の油絵では、風景画でも静物画でも、画面は隅々まで塗られるのが本来であり、何も描かれていない部分があるとすれば、それは単にⅡ完成に過ぎないからである。だが例えば長谷川等伯はせがわとうはくの《松林図》においては、強い筆づかいの濃墨の松や霽もやのなかに消えて行くような薄墨の松がつくり出す樹木の群のあいだに、何もない空間が置かれることによって画面に神秘的な奥行きが生じ、空間自体にも幽遠な雰囲気ほろが漂う。また、大徳寺の方丈ほうじやうに探幽たんゆうが描いた《山水図》では、何もない広々とした余白の空間が、あたかも画面の主役であるかのように見る者に迫って来る。

もともと余計なもの、二義的なものを一切排除するというのは、日本の美意識の一つの大きな特色である。京都御所の紫宸殿ししんでんの庭は、西欧の宮殿庭園に見られるような花壇や彫像や噴水はまったくなく、ただ一面に白い砂礫されきを敷きつめただけの清浄な空間であり、あらゆる装飾や彩色を拒否した簡素な白木造りの伊勢神宮いせじんぐうは、今日に至るまでもとのままのかたちで受け継がれ、生き続けている。伊勢神宮の式年造替しきねんぞうか(遷宮)が始まったのは紀元七世紀後半のこととされており、建物の原型もほぼその頃に成立したと考えられているが、当時日本にはすでに、大陸からもたらされた仏教が一世以上の歴史を経て定着しており、それにともなつて「青丹あせによし奈良の都」と言われる通り、多彩な仏教寺院建築も、奈良をはじめ日本の各地に建てられてい

た。仏教寺院の場合、建築工法も、柱を礎石の上に置き、屋根は瓦葺きという進んだやり方で、掘立柱、萱葺きの伊勢神宮より、保存性もはるかに高い（それゆえに、伊勢神宮は二十年ごとの建て替えが必要となる）。伊勢神宮でも、周囲にめぐらされた高欄の部分などに仏教建築の影響が認められるから、その造営にあたった工匠たちが大陸渡来の新技術を知らなかったわけではない。だがそれにもかかわらず、日本人は取って古い、簡素な様式を選び取り、しかもそれを千三百年以上にわたって保ち続けた。そこには、余計なもの拒否するという美意識——信コウと深く結びついた美意識——が一貫して流れていると言ってよいであろう。【C】

もちろん、その一方で、仏教美術のリユウ盛に見られるように、壮麗多彩なものを求める美意識も、日本人の大きな特色である。絵画の分野においても、水墨画と並んで、金地濃彩の大和絵や華麗な近世風俗画などに見られる装飾性が、日本美術の際立った特質であることは、たびたび指摘されて来た。実際、水墨画の本場である中国から見れば、日本美術はもっぱら華やかな飾りもののように見えたらしい。日本絵画について書かれた最も早い外国の文献である一二世紀初めの『宣和画譜』は、宋の徽宗皇帝のコレクションが所蔵する日本の絵画作品について、「設色甚だ重く、多く金碧を用う」と評している。美術愛好家のこの皇帝の手に渡った日本の作品が実際にどのようなものであったかはわからないが、禁欲的な水墨画とは対照的に、華麗な装飾性に富んだものであったことは確かと言ってよいであろう。

② その金色燦然たる作品においても、日本の場合、中心のモチーフ以外の余計なものはずべて拒否しようという意識が強く認められる。例えば、代表的な作例として、光琳のよく知られた《燕子花図屏風》がある。西欧の画家なら、水辺に咲き誇る花を描き出そうとするとき、池の面、岸辺、土堤、野原、おそらくは空の雲など、周囲の状況を残らず再現しようとするであろう。現に私は、ある外国人から、このかきつばたの花は「ア」と尋ねられたことがある。だが光琳は、利休が庭の花を切り捨てたように、そのような周囲の要素はすべて排除してしまった。そのために用いられたのが、あの華やかな金地である。つまり金地の背景は、同時に不要なものを覆い隠す役割を与えられているのである。【D】

あるいは近世初頭に多く描かれた「洛中洛外図」がある。そこでは、二条城をはじめ、著名な神社仏閣などの名所、町並み、年中行事である祭りの情景などが描き出されているが、それぞれの場面は、金雲と呼ばれる雲型の装飾模様で取り囲まれていて、われわれはあたかも雲の間から京都の町を覗き見るといような印象を受ける。結果として、町のなかには大量の雲が漂うという状態で、これも外国人からしばしば質問を受ける点である。だが金雲によって縁取られているからこそ、中間のつなぎの部分は覆い隠されて、各場面が何を表わしているかということがよくわかるのである。

室内の情景を表わしたものととしては、これも江戸期に好んで描かれた「誰が袖図屏風」がある。これは衣箱（注4）にかけられた衣裳を中心の主題としたものだが、その衣箱が置かれた室内の様子は、壁も畳も一切描かれていない。時には画面に双六盤やお盆の湯呑みのセットなど、人間の存在を暗示する小道具が描かれていることもあるが、登場人物の姿も消されてしまっている。このような「イ」という手法は、日本美術の常套手段の一つで、「留守模様」という優雅な名称すら与えられている。そしてここでも人物の代わりに登場して来るのは、一面の金地表現である。【E】

とすれば、このような金雲や金地は、もちろん一方で「ウ」ものであるには違いないが、同時に、

「エ」役割も担わされていることになる。それはいわば、黄金の「余白」に他ならないのである。金屏風は、今日でも、結婚の披露宴や何かの祝賀パーティにおいてしばしば用いられる。だがそれは決まって無地の金屏風である。昨年の末、私はソウルの日本大使館が開催したパーティに参加したが、そこで

も会場入り口に金屏風を立てて、大使が客を迎えていた。その時、同行した韓国の友人が、この金屏風はいかにも日本的だという感想を漏らした。聞けば、韓国においてもお祝いの席などに金屏風はよく登場するが、そこには必ず、松とか鶴などの吉祥モチーフが賑やかに描かれているという。無地の金屏風では、何か物足りなくて、淋しい感じすらするというのである。何も描かれていない一面の金地画面は、そこに日本人の独特な美意識を浮かび上がらせているのである。

(高階秀爾『日本人にとって美しさとは何か』による)

(注) 1 方丈——禅宗寺院における住職の居室。

2 式年造替——神社で定期的に社殿を建て替えること。

3 設色——彩色すること。

4 衣桁——着物などを掛けておくための家具。

問一 傍線部 a～e の漢字と同じ漢字を含むものはどれか。次の各群の 1～5 のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

a 裁さいバイ

- 1 庭の紅べにバイが香る
- 2 細菌をバイ養する
- 3 輸送力をバイ加する
- 4 バイ償責任を負う
- 5 売バイを仲介する

b ギョウ縮

- 1 会社のギョウ績が悪化する
- 2 兄は伝統芸能に通ギョウしている
- 3 必死のギョウ相ですがりつく
- 4 ギョウ政による支援を受ける
- 5 目の前の人物をギョウ視する

c 直セツ

- 1 ケーブルをセツ続する
- 2 足を骨セツした
- 3 スポーツ施セツを利用する
- 4 生活費をセツ約する
- 5 私にとってセツ実な問題だ

d 信コウ

- 1 無事をイノる
- 2 真実をツげる
- 3 天をアオぐ
- 4 学問をキワめる
- 5 口出しをヒカえる

e リユウ盛

- 1 川せんリユウを作る
- 2 返答を保リユウする
- 3 素そリユウ子の発見
- 4 リユウ起によってできた島
- 5 リユウ酸を使った実験

問二 傍線部1「千利休の朝顔をめぐるエピソード」とあるが、このエピソードから読み取れる利休の考え方はどのようなものか。最も適当なものを、次の1～6のうちから二つ選べ。解答番号は ・ (順不同)。

- 1 一見地味な空間にこそ、華麗な装飾性に富んだ美が存在する。
- 2 花の美しさだけでなく、簡素な茶室にも美を見出すべきである。
- 3 何もない空間があることで、一点の美がより引き立てられる。
- 4 権力者である秀吉に、一輪だけの貴重な朝顔を奪われてはならない。
- 5 庭の中で最も美しい朝顔を見つけられるのは、自分しかない。
- 6 庭一面の朝顔よりも、一輪の朝顔の美しさこそが強い印象を与える。

問三 波線部「それを見て秀吉は大いに満足した」とあるが、このときの秀吉の様子に近い言葉はどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 ねじを巻く
- 2 煙けいに巻く
- 3 管を巻く
- 4 舌を巻く
- 5 とぐろを巻く

問四 空欄①・②に入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選べ。ただし、同じ番号を二度以上使用してはならない。解答番号は① 、② 。

- 1 それとも
- 2 つまり
- 3 だが
- 4 では
- 5 あるいは

問五 空欄Ⅰ・Ⅱに入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選べ。ただし、同じ番号を二度以上使用してはならない。解答番号はⅠ 、Ⅱ 。

- 1 無
- 2 不
- 3 未
- 4 非
- 5 否

問六 傍線部2「それ」に該当しないものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。

解答番号は 13。

- 1 余計なものや二義的なものを排除した建築様式。
- 2 装飾や彩色を施すことをしない建築様式。
- 3 紀元七世紀後半頃に成立したとみられる建築様式。
- 4 仏教寺院の保存性の高さを生かした建築様式。
- 5 大陸渡来の新技術によらない古く簡素な建築様式。

問七 空欄アに入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- 1 いったいどこに咲いているのか
- 2 なぜ金色で描かれているのか
- 3 本当に日本で描かれたものなのか
- 4 どんな色をしているのか
- 5 いつ頃に咲くものなのか

問八 空欄イに入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

- 1 素朴さを強調する表現
- 2 不在による存在の暗示
- 3 簡素に見せかけた装飾
- 4 もののあはれの無常観
- 5 人間の生活の詳細な描写

問九 空欄ウ・エに入るものはどれか。最も適当な組み合わせを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番

号は 16。

- | | | | | |
|---|---|--------------|---|----------------|
| 1 | ウ | 中央に主題を置く | エ | 何もない空間を活用する |
| 2 | ウ | 華やかな装飾効果を目指す | エ | 余計なものを排除する |
| 3 | ウ | 壮麗多彩なものを求める | エ | 華麗な装飾性を演出する |
| 4 | ウ | つながりの部分を覆い隠す | エ | 各場面が表わすものを明示する |
| 5 | ウ | 美の世界を構成する | エ | 室内の小道具を装飾する |

問十 傍線部3「日本人の独特な美意識」とはどのようなことか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は□17。

- 1 吉祥モチーフを美しいものと考えないこと。
- 2 豪華な美しさと無地の華やかさを両立させること。
- 3 美しくないものを不要な存在として隠そうとすること。
- 4 物足りなさや淋しさを感じさせない美を目指すこと。
- 5 描かれていないところにかえって美を感じることに。

問十一 次の一文を本文の中に入れてみたら、「A」～「E」のうちのどこに入れるのがふさわしいか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は□18。

日本の水墨画における余白と呼ばれるものが、まさしくそのような空間である。

- 1 □ A □
- 2 □ B □
- 3 □ C □
- 4 □ D □
- 5 □ E □

問十二 本文のタイトルとしてふさわしいものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は□19。

- 1 利休の美学
- 2 東西の美意識
- 3 仏教美術と建築
- 4 余白の美学
- 5 美の不在とは

【選択問題】現代文

※国文学科に出席している場合（国文学科を併願している場合も含む）は、(二)ではなく、16ページからの(三)を解答すること

※この問題を解答する受験生は、マークシートの「(二)現代文」にマークの上、解答すること

(二) 次の文章を読んで、後の問い（問一～十一）に答えよ。

「ヒト以外の霊長類に『楽しむ』ということがどのように観察されますか」といった質問をよく受ける。これは答えるのに、なかなか苦労する質問であり、そのたびに私は、『楽しむ』とはどういうことを考えてしまうのである。人間においてさえ、多くの場合楽しみでやっていると思うこともいつか苦痛になり、苦しみの中にも楽しみを感じるようになったり、他人が楽しむことでも、自分では少しも楽しくなかったり、^aガイして楽しみとは個体本位的な喜びであるらしいのである。と思っていると他人が喜ぶ姿を見て、自分も嬉しくなったり、そのあり方は多分に共感意識とでもいったものにささえられていることもわかるのである。

思えば、人間は楽しむことを知る唯一の動物であるとも言われてきた。だがヒト以外の動物にも楽しみとか喜びがないわけではない。ネコは手まりにじゃれつくし、犬は、飼い主が帰ってくれば、足元を小躍りしてかけ回り喜びを表わす。だが、それらの行動も、本能的な喜びの表出ではあっても、ヒトの味わうことのできる、知的な楽しみとは段階の異なるものであると言うことも出来よう。

ヒトは万物の霊長として、ヒトだけに与えられている様々な特権を具有していると一般には考えられている。言語を自由にあやつってたがいのコミュニケーションをはかったり、物事や思考を記録したり出来るのはヒトだけだし、道具を製作し使用し、火を使えるのもヒトの特権である。①、知的なあるいは創造的な楽しみについてみれば、それは自然界においてヒトだけが享受しうる特権の一つだと言って良いであろう。ヒトはそのような自然界でヒトだけが所有することになった様々な特権を完全に活用することによつて自然を^bセイ服し、現在のような地球——ヒト社会をつくり上げてきたと言うことができる。【A】

だが現在、地球上で飛躍的に増加した人口や、ヒトの生産活動からもたらされる、^I副次的に生じてきた様々な弊害は、二一世紀を望む人類の最大の課題となっているのである。地球上の自然界の構成物の中で、人類が、万物の霊長たるヒトの特権を無制限にこれまでと同様に行使し続けていった場合、地球の自然・生態系はどのようなようになっていくのだろうか。ヒトが享受してきたこれらの特権も、生物の長い進化の道すじの上で、ヒトになる過程で獲得してきたものであって、他の動物の行動とそうはつきりと一線を画することの出来るものではないのだ。私たちの行動のひとつひとつのひだには、動物の行動と共通する基盤が脈々と流れているということを知るのは、無意味ではないであろう。（中略）

チンパンジーの野外研究の初期の段階で、J・グドールは、チンパンジーのレイン・ダンス（雨踊り）について記している。激しい雷雨の中で、チンパンジーが興奮してあばれ回るのである。彼らは何かにつけ激しやすく、毛をさか立てて、あばれ回り、両手で地面や板根をたたいて、集団はますます興奮の^{II}つぼと化するのである。【B】

レイン・ダンスに似た行動について、私はニホンザルでも観察したことがある。それは、長野県志賀高原地獄谷のニホンザルで、一九六三年七月、初夏の雷雨がやってきた時だった。前の冬、餌づいたばかりのサルの群れは、地獄谷後楽館温泉の対岸の杉林の中にいて、私は雨が降ってきたので観察を中止して宿に引き

上げ、温泉につかりながら雷雨のシユウ来を眺めていた。雷鳴と共に、杉林の中で梢のひとときわ高いキリの樹の樹上に上ったり下りたり、サル達は狂気のようにさわぎ出したのである。それは夏の激しい驟雨の中でしたらしく続いていた。この例から判断する限り、集団の成員の多くが興奮の渦に見舞われるという現象は、類人猿に限られるものではなく、他の狹鼻猿にも一般にありうることを考えたほうがよいであろう。しかし、長い観察の経験の中でも、このような例は多くはないのだから、こういう行動は「ア」と考えられる。地獄谷のニホンザルのこの集団はその後温泉の露天風呂に入ることを覚え、今では温泉に入るサルとして有名になっている。最初、子ザルが入るのを見つけたのは私だった。温泉に入るこの行動は、今では群れの多くのサルに伝播している。

私は、タンザニア西部のサバンナ・ウッドランド地域で野生チンパンジーを追っていた時、次のような光景を観察して感動したことがある。それは、一頭の若いおとなのオスのチンパンジーが、川辺林のひとときわ高い樹の梢近くまで登り、西側に連なるムココチ山の彼方に沈んでいく夕陽をいつまでも、長い時間見つめていた光景である。

その日私は、川の上流部の支流がいくつか合わさる地点に発達した低木やツル類のからみ合った低い茂みの中で、一〇〜二〇頭余りの小さくないチンパンジーの集団に遭遇しては逃げられる、ということを繰り返していた。チンパンジーは茂みの中の地上にいて、静かにやっと近づいたと思うと逃げられていた。至距離に近づいたと思っても茂みの陰で姿は見えず、彼らは時折「フー、ウー」といった、有声音にならない、ささやき声のような音声で互いに連絡し合って、いつとはなく姿を消してしまったりした。川辺林の中に夕陽が斜めに落ちてくる頃、その日の不出来なチンパンジーとの出会いにしばれを切らして私は帰りかけようとしていると、一頭の若いオスのチンパンジーが、小高い樹に上ってきた。そのチンパンジーは、するすると樹のずっと梢近くまで上っていくと枝に座り込み、遠くの方を眺め出した。私は最初、彼が何をしているかわからなかったし、ただそこで休んでいるくらいにしか考えていなかったのだが、やがて、空が紅く染まり、川辺林のほの暗い林床まで、その紅い夕陽がさし込んでくるのに気づいた時、私は、そのチンパンジーが、沈んでいく太陽を、染まっていく夕空を眺めているのだということを確認した。

彼はいつまでも、夕陽を眺めながら、そのままの姿勢で座っていた。他の個体は近くにはいないようであった。彼は、私とその樹の根元のすぐ近くにいることを知りながら、身動きもしないで西の空を眺めていた。②、夕闇がせまり、川辺林の中は暗くなったので私は帰路に着こうと、川辺林の外の草原へ出た。それでもそのチンパンジーは川辺林からひとときわ梢を出したその樹上で、座ったままのシルエットを夕焼けの空に映し出していた。

動物の行動には、遺伝子に支配された「イ」が存在し、一般にはそれは本能的行動と呼ばれている。本能的行動は内なるシヨウ動とそれへの外からのシ激の強さによって、どのような行動が起こるかは一般的に予測が可能だとされている。③、脳が発達した動物になるほど、遺伝的制約から自由な、社会や文化の影響の下に形成された行動型が、いろいろと見られるようになる。このような行動は、動物の個体が生まれて成長していく過程で、外のものを見ならい、学習することによって形成されていく行動で、私たちは、このような行動を一般的に文化的行動と呼んでいる。

チンパンジーの夕陽を眺める行動は、いかにそれがヒトの情緒的行動に繋がる高等な行為だとしても、それだけでは文化的行動とは言えないであろう。文化的行動とは、それが遺伝的なものではなく、ヒトからヒトに伝えられ、世代から世代に伝承されていく行為を一般に言う。このように学習され、伝達されていく行為は一代限りのものではなく、世代に引き継がれていくことによってその集団全体のものとなり、やがてひ

とつ文化となっていく。このような現象はヒト以外の動物にはなく、ヒトに固有な特性だと最近まで考えられ、ヒトが文化を保有するということが万物の霊長たるゆえんであるとも考えられてきた。【C】
道具を製作し、それを使用する能力も、文化的行動のひとつである。ひとが道具を作るのは、アリやハチが自分達の巣をつくり、巣穴を掘るのは異なる。昆虫達のそれは【ウ】にそなわった能力であり、遺伝的な行為であるのだが、ヒトの道具の製作や使用は、創意と学習と訓練によっている。ヒトのそれは明らかに遺伝による【ウ】能力とは異なり、【エ】に個体の中で新たに形成されていくものである。生物学では、これを遺伝的な先天的性質に対して【エ】性質と呼ぶ。

ヒトは直立姿勢をとることによって前肢、すなわち両手をより自由に使うことができるようになったという話ほどの教科書にもある人類進化上の有名な出来事である。一般に、手の自由な使用と頭脳の大脳化とは強い関連があると考えられている。直立姿勢—手の解放とその使用—大脳化といった人類進化にとって大切なこれらの事象は、進化の過程で互いに交互作用的に関連しており、関係はまた逆も成り立つのである。【D】
いづれにせよ、高度な文化的行動の発達は、このような直立姿勢、手の解放、大脳化といったヒト化への一連の^{III}パラダイムの中で形成され発達してきたことは間違いなく、ヒトの持つ高次神経系とも深いかわりのある行動現象なのである。ヒトの祖先は文化的行動を発展させることによって、ますますヒト的になってきたといえるのである。【E】

(鈴木晃『夕陽を見つめるチンパンジー』による)

(注) 1 驟雨——にわか雨。

2 狭鼻猿——左右の鼻の穴が接近して下を向いているサル類。チンパンジー・ニホンザル・ヒトなど。

問一 傍線部 a ～ e の漢字と同じ漢字を含むものはどれか。次の各群の 1 ～ 5 のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

a ガイ|して

- 1 組織の形ガイ|化を憂う
- 2 時の政府を弾ガイ|する
- 3 旅費をガイ|算する
- 4 無礼な対応に憤ガイ|する
- 5 歴史上の人物の生ガイ|をたどる

b セイ|服

- 1 セイ|約書を提出する
- 2 セイ|絶な戦いを繰り広げる
- 3 試合のため海外に遠セイ|する
- 4 独裁者が反対派を肅セイ|する
- 5 睡眠から完全に覚セイ|した

c シユウ|来

- 1 有シユウ|の美を飾る
- 2 優シユウ|な成績で卒業する
- 3 事態の収シユウ|をはかる
- 4 壁画のシユウ|復作業
- 5 師匠の名をシユウ|名する

d ショウ|動

- 1 意見がショウ|突する
- 2 警ショウ|を鳴らす
- 3 一人で感ショウ|にふける
- 4 戦争でショウ|土と化する
- 5 権力をショウ|握する

e シ|激

- 1 論文の要シ|を伝える
- 2 権力者を風シ|する
- 3 福シ|活動に力を注ぐ
- 4 真シ|な態度を見せる
- 5 パーティーでシ|会をする

問二 傍線部1「ヒトだけに与えられている様々な特権」とはどのようなことか。該当しないものを、次の

1～5のうちから一つ選べ。解答番号は□25。

- 1 本能的な喜びを、身体的な動きによって表出すること。
- 2 言語を用いてコミュニケーションをはかること。
- 3 創意と学習と訓練によって、道具を製作し使用すること。
- 4 知識を得ることや創造する楽しさを味わうこと。
- 5 自然界を支配し、自分たちのための社会をつくること。

問三 空欄①～③に入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

ただし、同じ番号を二度以上使用してはならない。解答番号は①＝□26、②＝□27、③＝□28。

- 1 確かに
- 2 そこで
- 3 それに対して
- 4 やがて
- 5 もちろん

問四 波線部I「副次的」、II「るつぼと化す」、III「パラダイム」の本文中での意味はどれか。最も適当な

ものを、次の各群の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は□29～□31。

I 副次的

□29

- 1 当然の結果である様子
- 2 連続して発生する様子
- 3 物事が長続きしない様子
- 4 付随した関係にある様子
- 5 内容が望ましくない様子

II るつぼと化す

□30

- 1 瞬間的に表れる様子
- 2 断続的に変化する様子
- 3 ゆっくりと進む様子
- 4 急に静まる様子
- 5 激しく高まる様子

III パラダイム

□31

- 1 考え方や認識の枠組み
- 2 正しいとされていること
- 3 プロセスを図にしたもの
- 4 相反する意見どうしの対立
- 5 発想や価値観の急激な変化

問五

空欄アに入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 32 。

- 1 レイン・ダンスとは呼べないこと
- 2 一部の研究者だけが知っていること
- 3 すべてのサル類が日常的に行っていること
- 4 きわめて稀まれにしかみられないこと
- 5 進化の過程で自然に生じたこと

問六

傍線部2「その日の不出来なチンパンジーとの出会い」とあるが、どのような点で「不出来」だったと言うのか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 33 。

- 1 チンパンジーの有声にならない音声を、うまく聞き取れなかった点。
- 2 チンパンジーが興奮してあばれ回るので、遠くから見ただけだった点。
- 3 チンパンジーの集団に逃げられてばかりで、観察がうまくいかなかった点。
- 4 若いオスのチンパンジーが、樹の上で何をしているのかわからなかった点。
- 5 夕陽を眺めていたチンパンジーが、実はただ休んでいるだけだった点。

問七

空欄イに入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 34 。

- 1 他者から学ぼうとする積極的な行動
- 2 楽しみを共有する協力的な行動
- 3 生物の一部に特有の生理的な行動
- 4 模倣によって身につける習慣的な行動
- 5 その種に共通の画一的な行動

問八 傍線部3「チンパンジーの夕陽を眺める行動は、いかにそれがヒトの情緒的行動に繋がる高等な行為だとしても、それだけでは文化的行動とは言えないであろう」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 35。

- 1 文化的行動とは生きていくために有用なものを言うが、夕陽を眺めるという行動は何の意味もないものだから。
- 2 文化的行動とは世代に引き継がれて集団に定着するものを言うが、夕陽を眺めるという行動は伝承されていないから。
- 3 文化的行動とは創意や学習や訓練と密接に結びついたものを言うが、夕陽を眺めるという行動は遺伝によるものだから。
- 4 文化的行動とは社会活動の下に形成されたものを言うが、夕陽を眺めるという行動は社会に反発するものだから。
- 5 文化的行動とは高度な感受性に裏打ちされたものを言うが、夕陽を眺めるという行動は感受性に基づいていないから。

問九 空欄ウ・エに入るものはどれか。最も適当な組み合わせを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 36。

- | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|
| 1 | ウ | 科学的 | エ | 文化的 |
| 2 | ウ | 本能的 | エ | 後天的 |
| 3 | ウ | 物質的 | エ | 精神的 |
| 4 | ウ | 受動的 | エ | 能動的 |
| 5 | ウ | 感覚的 | エ | 意図的 |

問十 次の一文を本文の中に入れるとしたら、A～Eのうちのどこに入れるのがふさわしいか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 37。

すなわち、手の使用と大脳化がますます直立姿勢を強めていったとも考えられるのである。

- | | |
|---|-----------------------------------------------------------------|
| 1 | A |
| 2 | B |
| 3 | C |
| 4 | D |
| 5 | E |

問十一 本文の内容と合致するものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 38。

- 1 ヒトの生産活動による様々な弊害を解決するには、ヒトになる過程で獲得してきた能力を知ることが不可欠である。
- 2 地獄谷のニホンザルの露天風呂に入るという行動は、チンパンジーのレイン・ダンスと同じ基盤によると証明できる。
- 3 夕陽を見つめるチンパンジーの姿は、動物にヒトと同じ特性があることを表しており文化的行動のきざしと言える。
- 4 脳が発達した動物は遺伝的制約にとらわれないので本能的行動とは無縁であり、思考に基づいて行動する。
- 5 ヒトの高度な文化的行動の発達は、直立姿勢など他の動物とは異なる進化の過程を経てもたらされたものである。

【選択問題】 古文

※国文学科に出願している場合（国文学科を併願している場合も含む）は、(二)ではなく、必ずこの問題を解答すること

※この問題を解答する受験生は、マークシートの「(三)古文」にマークの上、解答すること

(三) 次の文章は『源氏物語』の一節である。光源氏は、伊予介の妻いよのすけに思いを寄せ、夜、こっそりと訪れるが、光源氏が来たことに気づいたその女性は、その場を去る。しかし、その際に、小桂こうちきを置いてきてしまう。以下の本文は、その小桂を手に入れた光源氏が、騒ぎになる前に忍び込んだ家を出て、うまく帰ろうとしている場面から始まる。これを読んで、後の問い（問一～十二）に答えよ。

小君注1、近う臥したるを起こし給へば、うしろめたう思ひつつ寝ければ、ふとおどろきぬ。a戸をやらおし開くるに、老いたる御達注2の声にて、

「あれは誰ぞ。」

とおどろおどろしく問ふ。わづらはしくて、

「まろぞ。」

といらふ。

「夜中に、こはなぞと歩かせ給ふ。」

とさかしがりて外さまへ来。いとにくくて、

「あらず。bここもとへ出づるぞ。」

とて君をおし出でたてまつるに、あかつき近き月、隈なくさし出でて、ふと人の影見えければ、

「またおはするは誰ぞ。」

と問ふ。

「民部注4のおもとなめり。iけしうはあらぬおもとの丈たけだちな。」

と言ふ。丈高き人の常に笑はるるを言ふなりけり。老人注5、これを連ねて歩きけると思ひて、

「いま、ただ今立ち並び給ひなむ。」

と言ふ言ふ、われもこの戸より出でて来。わびしければ、えはたおし返さで、渡殿わたどのの口にかい添ひて隠れ立ち給へれば、このおもと、さし寄りて、

「おもとはこよひは上注7にやさぶらひ給ひつる。おととひより腹を病みて、いとわりなければ下に侍りつるを、人少ななりとて召ししかば、よべ参まう上りしかど、なほえ耐ふまじくなむ。」

とうれふ。いらへも聞かで、

「あな腹々はらはら。いま聞こえん。」

とて過ぎぬるに、からうして出でたまふ。なほかかる歩きはかるがろしくあやしかりけりと、いよいよおぼし懲りぬべし。

小君、御車のしりにて、二条院注8におはしましぬ。ありさまのたまひて、
「をさなかりけり。」

とあはめ給ひて、かの人の心を爪はじきをしつつうらみ給ふ。いとほしうてものもえ聞こえず。

(光源氏)「いと深うにくみ給ふべかめれば、身もうく思ひ果てぬ。なかよそにてもなつかしきいらへばかりはし給ふまじき。(I)伊予の介におとりける身こそ。」

など、心づきなしと思ひてのたまふ。ありつる小袿をさすがに御衣の下に引き入れて、大殿籠れり。小君を御前に臥せて、よろづにうらみ、かつは語らひ給ふ。

(光源氏)「吾子はらうたけれど、つらきゆかりにこそえ思ひ果つまじけれ。」
とまめやかにのたまふを、いとわびしと思ひたり。

しばしうちやすみ給へど、寝られ給はず。(II)御覗いそぎ召して、さしはへたる御文にはあらで、畳紙に手習のやうに書きすさびたまふ。

工空蟬の身を変へてける木のもとになほ人がらのなつかしきかな

と書きたまへるを、懐に引き入れて持たり。かの人もいかに思ふらんといとほしけれど、かたがた思ほし返して、御ことつけもなし。かの薄衣は小袿のいとなつかしき人香(ひしが)に染めるを、身近く馴らして見るたまへり。

小君、かしこに行きたれば、姉君待ちつけていみじくのたまふ。

(小君の姉)「あさましかりしに、とかう紛らはしても、人の思ひけむこと避り所なきに、いとなむわりなき。いとかう心をさなきをかつはいかに思ほすらん。」

とてはづかしめ給ふ。左右に苦しう思へど、かの御手習取り出でたり。さすがに取りて見給ふ。かのもぬけを、いかに伊勢をの海人のしほなれてや、(注10)など思ふもただならず。いとよろづに乱れて、西の君も物はずかしき心ちして渡り給ひにけり。また知る人もなきことなれば、人知れずうちながめてみたり。小君の渡り歩くにつけても胸のみふたがれど、御消息もなし。あさましと思ひ得る方もなくて、されたる心にもあはれるべし。

つれなき人もさこそ静むれ、いとあさはかにもあらぬ御けしきを、(II)ありしながらのわが身ならばと、取り返すものならねど、忍びがたければ、この御畳紙の片つ方に、

空蟬の羽におく露の木がくれて忍び忍びに濡るる袖かな

注1 小君——伊予介の妻の弟で、光源氏に仕えている。小君の手引きで、光源氏は忍び込んでいる。

注2 老いたる御達——年配の女房。「老い人」「このおもと」も同一人物。

注3 あらず——ここでは、「なんでもない」「くらいの意味。

注4 民部のおもと——女房の呼称。

注5 これ——背の高い女房のこと。

注6 おもと——ここでは、「あなた」くらいの意味。

注7 上——主人のいるところ。

注8 二条院——光源氏の住んでいるところ。

注9 かの人——伊予介の前妻との娘(のきはのむすめ)のこと。「西の君」も同一人物。

注10 伊勢をの海人のしほなれてや——「鈴鹿山伊勢をの海人の捨て衣しほなれたりと人やみるらん（訳 伊勢の海人の脱ぎ捨てた衣のように、潮でなえていると、あなたは思うでしょうか）」という和歌を踏まえた表現。置いてきた小袿のことを気にしている。

問一 傍線部 a～e の解釈や説明として、最も適当なものを、次の 1～5 のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

- a おどろきぬ
- | | | | | |
|----------|-------|-------|-----|-------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 理解できなかった | 上着を着た | 目が覚めた | 驚いた | 冷静だった |

- b あかつき
- | | | | | |
|------|----|----|-----|----|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 夜明け前 | 輝き | 夕闇 | 赤い月 | 昼時 |

- c なつかしき
- | | | | | |
|----------|-----------|----------|------------|-------------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 理由を説明できる | 親しみが感じられる | 形式を大切にする | 心から気の毒だと思ふ | 昔のことが思い出される |

- d 心づきなし
- | | | | | |
|--------|------|--------|-------|--------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 心配している | 話が違う | 負担が大きい | 飽きてきた | 気にくわない |

- e らうたけれど
- | | | | | |
|-----------|-------------|---------|---------|-----------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| かわいらしいけれど | 考えがおさなしいけれど | 間が悪いけれど | かしこいけれど | 誠実ではあるけれど |

問二 波線部(i)と(ii)の文法的説明として、最も適当なものを、次の1～5のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は(i)㊦25、(ii)㊦26。

(i) なめり ㊦25

- 1 推定や伝聞を表す助動詞「なり」の連体形促音便無表記+完了の助動詞「り」の終止形で、「～と聞いている」という意味を表している。
- 2 断定の助動詞「なり」の連体形撥音便無表記+推定の助動詞「めり」の終止形で、「～である」と見える」という意味を表している。
- 3 動詞「なめる」の連用形で、「軽視するな」という意味を表している。
- 4 動詞「なむ」の已然形+完了の助動詞「り」の命令形で、「悪い冗談はよしなさい」という意味を表している。
- 5 完了の助動詞「ぬ」の未然形+名詞「め」+完了の助動詞「り」の終止形で、「～は駄目だ」という意味を表している。

(ii) 寝られ給はず ㊦26

- 1 可能の助動詞と、打ち消しの助動詞を用いることで、不可能の意味を表している。
- 2 尊敬の助動詞と、打ち消しの助動詞を用いることで、主語への敬意がないことを表している。
- 3 可能の助動詞と、意志・推量の助動詞を用いることで、推量可能の意味を表している。
- 4 尊敬の助動詞と、完了の助動詞を用いることで、主語への敬意を表している。
- 5 尊敬の助動詞と、完了の助動詞を用いることで、聞き手への敬意を表している。

問三 傍線部ア「いま聞こえん」の解釈として、最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は㊦27。

- 1 「聞こえん」は、「聞こえる」の撥音便であり、「そのうち、評判になります」というような、他人の家に忍び込んだことを暗に非難する際の言葉として解釈するのがよい。
- 2 「聞こえん」の「ん」は、打ち消しの助動詞「ず」であり、「現在は、聞こえません」というような、その場で病状を訴える言葉として解釈するのがよい。
- 3 「聞こえん」の「ん」は、完了の助動詞「ぬ」であり、「すでに、申し上げました」というような、相手の病状を主人に報告した際の言葉として解釈するのがよい。
- 4 「聞こえん」の「ん」は、終助詞であり、「ただちに、お調べ申し上げます」というような、相手の病状を確認する際の言葉として解釈するのがよい。
- 5 「聞こえん」の「ん」は、意志・推量の助動詞「む」であり、「近いうちに、申し上げます」というような、その場を離れる際の言葉として解釈するのがよい。

問四 傍線部イ「かの人」とあるが、これは誰のことか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 年配の女房
- 2 光源氏
- 3 小君
- 4 伊予介
- 5 小君の姉

問五 傍線部ウ「つらきゆかり」とあるが、これは具体的にはどういうことか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 光源氏が思いを寄せている女性に夫がいること。
- 2 小君の姉と、西の君が、義理の親子の関係にあること。
- 3 小君が、光源氏を避けている女性の弟であること。
- 4 意中の相手と、隠れて会わなければならないこと。
- 5 他人の家に毎回忍び込むのは、危険であること。

問六 傍線部エ「空蟬の身を変へてける木のもとになほ人がらのなつかしきかな」とあるが、この和歌の説明として、最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 蟬は地中では数年を過ごす、抜け殻を残して大空に飛び去った後は、数日しか生きられないことに思いをはせ、自分たちも、大空を駆け大声で鳴いて求愛する蟬のように自由に生きようと呼びかけている。
- 2 蟬が抜け殻を残して飛び去ったことと、女性が衣一枚を残して去ったことを重ね、残していった衣をよすがに、その人を慕わしく思う気持ちを表現している。
- 3 蟬は抜け殻を残して飛び去ってしまったけれど、抜け殻が残っている木のもとには、人がらのよい、懐かしい人がいるのだと、幼なじみへの愛を表現している。
- 4 蟬が身を変えて大空を飛ぶことと、出家して仏道に入ることを重ね、尼になってしまったら連絡が取れなくなってしまうので、懐かしく思うだろうと嘆いている。
- 5 蟬は抜け殻を残して飛び去った後に求愛行動をする。このことと、女性が小袿を残していったことを重ね、殻を脱ぎ捨てた後は、空を飛ぶ蟬のように自由に恋愛ができると説得している。

問七

二重傍線部（Ⅰ）「伊予の介におとりける身こそ」とあるが、この表現から読み取れる光源氏の心情として、最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 31。

- 1 小桂を着ていた女性への扱い方が、伊予介におとっていることを、懸念している。
- 2 自分がこれから詠む和歌は、伊予介におとっているのではないかと、不安に思っている。
- 3 屈強な伊予介と比べると、身体的におとっているのも、恥ずかしく思っている。
- 4 女性を大切に思う気持ちだが、伊予介におとっているのではないかと、自信を失っている。
- 5 伊予介の妻が自分を避けるので、伊予介よりもおとっているのかと、不愉快に思っている。

問八

二重傍線部（Ⅱ）「ありしならのわが身ならば」とあるが、このように考えた女性の気持ちを説明したものととして、最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 32。

- 1 かつての自分であれば蟬にたとえられたとしても何とも思わないのだが、今の状況では、人を昆虫にたとえることは看過できないと考えている。このため、涙がでるほど、くやしい。
- 2 あの時に小桂を忘れてこなければこのような恥をかかなかったのと考えており、何とか、小桂を取り返したいと思っている。
- 3 光源氏を避けてはいるものの、かつての自分であれば、光源氏の気持ちを受け入れていたかもしれないと思っている。光源氏を、心底、嫌悪しているというわけではない。
- 4 あの時は、小桂を気にかける余裕はなく、置いてきてしまったことは仕方がないと諦めている。瞬時の判断としては誤りではないものの、なぜこのようなことになったのかとひどく困惑している。
- 5 光源氏の行動には理解しがないものが多く、若い時に出会っていたとしても、付き合うことは難しかっただろうと思っている。光源氏を嫌いではないものの、根本的なところであわなれと感じている。

問九

本文の内容と合致しないものはどれか。次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 33。

- 1 年配の女房は、光源氏に話しかけているが、光源氏だとは気づいていない。
- 2 年配の女房は、一昨日からお腹をこわしており、今も調子が悪い。
- 3 年配の女房と一緒に働いている女性の中に、背の高い女性がいる。
- 4 小君は、背の高い女房と同じくらいの身長であり、年配の女房に、それを指摘されている。
- 5 年配の女房に見つかりそうになった光源氏は、自分の行動を反省している。

問十 本文の内容と合致するものはどれか。次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 小君は、大きな音を立てて戸を押し開けたため、年配の女房に怪しまれた。
- 2 光源氏は、小君を大切に思っており、ずっと大事にすると小君に伝えている。
- 3 西の君は、光源氏から連絡がないことを全く気にしていない。
- 4 小君は、うしろめたく思う気持ちがあるため、近くに寝ている女性を起こした。
- 5 光源氏は、休む前に、手に入れた小桂を、自分の着物の下に引き込んでいた。

問十一 『源氏物語』の作者と同時代に活躍した人物は誰か。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 阿仏尼
- 2 建礼門院右京大夫
- 3 額田王
- 4 清少納言
- 5 小野小町

問十二 『源氏物語』より後に成立した文学作品は何か。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 『伊勢物語』
- 2 『土佐日記』
- 3 『太平記』
- 4 『日本霊異記』
- 5 『竹取物語』